

細川かをり県政報告

第 37 号

教育行政について

先日、かつてお子さんが中学校で不登校になり、何度も死のうとされ苦しんだ経験をお持ちのお母様が訪ねてこられました。

「当時担任に不登校の原因を聞いても『わからない』とか『いじめが原因』、『原因は本人』などと言われたが中学卒業後、子どもがようやく原因を吐露、実は、原因は担任の指導にあった。」

とのこと。池田中学校での生徒さん自死事件を知り、その新聞記事の切り抜きを手に、「自分の息子も一つ違えば自死していたかもしれない。こんなこと二度と繰り返さないで。」と訴えられました。

実は私の親戚にも、自死した高校生がいます。原因不明で、それだけに家族、特に母親は、何年経ってもいまだに苦しんでいます。

これまで、子どもの自死や自死未遂がほとんど表ざたになってこなかったことを考えると、池田町が第三者調査委員会を調査を行い公表したのは、英断だったかもしれせん。

それだけに、可能な限り、県の教育行政をエックする事が議会の責務、私は元教員として「現場の実情を訴え判断を促す役目」と議会に臨みました。



新年おめでとうございます。
今年「戌（いぬ）年」、その意味は昨年「酉（とり）＝実り・収穫」の次の段階で、「草木が枯れる状態」とか「作物を刈り取りひとまとめに締めくくること」を示しているそうです。文献によっては「守る：植物が育って花が咲き、実をつけ食べごろが過ぎた後、自分の実を落とすして本体だけは守る」と書かれています。深い意味が込められています。

人生にとっても、今の社会にとっても、大事な観点です。
福井にとっても皆様にとっても、新たな良い成長を促せるような基礎固めができる1年でありますよう、心よりご祈念申し上げます。



議員側
研修でさらに多忙化するのでは？

叱責や厳しい指導の背景に、「学力日本一を」というプレッシャーはなかったか？

閣議員 答弁の中身と現実とに起きている言動とは全く違っていると思う。下（現場）から悪い話は上がってこないもので、システムにおごりが感じられる。事故発生後の数日間の学校・行政の態度は、皆が自分の責任ではないと逃げている。家族が知らないことがなぜ新聞報道で流れる？

ズバッ！

閣議員の厳しいご発言にはさすが！上っ面の議論で終わってはならないとの思いを持ちました。

それにしても、教育となると、自分の質問姿が・・・

インターネットで確認



怖い・・・

① 総務教育常任委員会調査

池田中学校の学校経営の状況

今回の教育議論は、党派会派問わず議会総がかりでした。



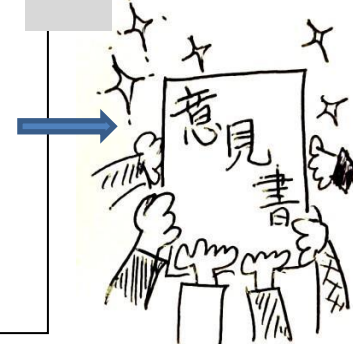
県教委

学力テストは授業改善目的であり、過度な競争・プレッシャーはなかった。過度な序列化や競争をあおるような教育は、本来の福井県の教育ではない。

② 12月議会の、代表質問・一般質問・予算決算特別委員会等、全てで議論

（一部抜粋）
日本一であり続けることが目的化し、本来の公教育のあるべき姿が見失われたのではないか。
痛ましい事件の根本の背景をとらえた上で、命を守ることを最優先とし『いま日本に必要な教育』『真の教育の在り方』を再考すべし。

③ 意見書採択



県政報告会

★ ラジオ「丹南FM79.1」

「県議会 夢 通信」

1月20日(土) 午後4時～4時半
(再) 21日(日) 午前10時～10時半

細川かをり県政報告 H30.1
発行：福井県議会議員 細川かをり
事務所：越前市村国1丁目2-11
TEL・FAX 42-5888

1月9日（火）午後1時半～

場所 「細川かをり事務所」
村国1丁目2-11

テーマ 教育や若者の問題 など

※お車でお越しの際は、立正佼成会の駐車場南側に建物を正面にして駐車して下さい。

※頂いたご意見は議会活動に役立たせていただいています。m(_ _)m

教員にとって、子ども一人ひとりの個性を理解し、それに応じた指導を行い、学級集団で良い関係を築かせる、本来の学級経営が大事です。
同様に、教員にも得意・不得意・個性があります。厳しい先生にけん引してもらったり、優しい先生に癒してもらったり、楽しい先生がいて、引き締める先生がいる。「チームとしての教育力が、今回、何故機能しなかったのか」という点が、担任・副担任の指導の問題と合わせ疑問に思います。
そして、県の「学力日本一重視」が、教育現場をゆがめていないか、多忙化で子どもに向き合う時間も取れないのではないかと懸念しています。
今議会、代表質問・一般質問・委員会質問と、多くの議員が県教委の姿勢をただし、最終的に「福井県の教育行政を根本から見直す意見書」としてまとめました。「意見書」は、「議会として理事者（知事を筆頭とする県庁幹部）に改善を求めるもの」で、より大きな影響力を持つものです。
議会最終日には、この意見書を可決しましたが、教育環境が良い方向に整い、二度とこのようなことを起きないようにと願ってやみません。
しっかりとチェックし続けてまいりたいと存じます。

県から送られてくる文書

義教第449号
平成29年12月4日

福井県教育庁義務教育課長

委員会教育長
会連絡協議会長
事務所長
研究所長

件度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題
調査」結果（速報値）について（通知）

1週間の授業コマ数と教員の指導計画（スケジュール）

曜	月	火	水	木	金
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○
6					

↑ 超過勤務が過労死
ライン越えの先生も…

く、別添写しのとおり文部科学省初等中等教育局児童生徒課長より通
で送付します。各市町教育委員会におかれましては、貴所管の小・中学
を踏まえて生徒指導の一層の充実が図られるよう対応願います。

普通学校の授業は週 29 時間。小学校教員はそのうち 26~27 時間授
業を行い、中学校ならば 18~14 時間の授業と放課後の部活で埋ま
る。数少ない空き時間に、「授業の後始末や準備、テストの丸付け、
連絡帳チェック、教材研究、学校行事の企画、県の調査などの提出、
自分の着替えやトイレ・・・」と、やることは多様。到底勤務時間
内にこなすことはできないので、時間外・休日出勤となる。

そこへ**本来の学習過程にはない『英検対策』や
『学力テスト対策』**が割り込んできている。
子供と向き合う時間を県教委が阻害の原因を作っている。

↑ 恐縮ですが、
私の昔の資料です。
スケジュールびっしり！

教育現場が、人間教育ではなく点数を追いかける
のが教育だと勘違いし始めることを一番恐れます

さらに池田中学校 生徒自死事件
の検証としてたまたした事柄

- 学校でのヒヤリハットの事例をつかみ予防することが第一。
- 生徒理解・生徒指導の力量向上。
- 校長・教頭・教務主任・養護教諭・生徒指導主事などの役割確認と、**チーム学校としての総合力**が大事。
- 大量退職時代の人材育成（今後 **14 年間で教員半減**）
- 学校内での生徒の情報共有のための**時間確保**への配慮。
- 管理職登用での**学校経営能力の評価**の重要性。
- 危機管理・対応・ご遺族とのコミュニケーション**。
- 過度なテスト対策で**本来の教育**が損なわれないように。
- 教員の自殺者数**は？⇒平成 19 年以降で **10 名**
- 丁寧な教育のための**現場環境改善**・・・など。



京都市の学校運営の柱の第一は
「こどもの命を守り切る」です。
視察し、徹底した安全対策に感銘を
受けました。教員必携の「生徒指導
ハンドブック」はまさに虎の巻。
議場で中身を紹介しました。

細 教育委員会が現場に対し、「指導する」
とか「周知する」とすると言うのは、文書
を発出するだけのことだ。その数は？

教 回答のいるもの 178 件、重要通知文書 58
件、軽微なものも含む数は把握していない。

細 12月初めで発出番号が 449 号なのだから
1 年で 5~600 通はあるだろう。他にも各種
団体からも来る。忙しい現場に毎日毎日ミ
ッション（役目）が降ってくるわけだが、
アンケート 1 つでも手間がかかる。

それらを、**この忙しい現場で、誰がいつど
う処理していると思われるのか。**

**教育委員会は通知を出せば事足りるだ
ろうが、受ける現場は一つひとつを形にし
なくてはいけない。学校現場の大変
さをもっと認識すべきだ。**

細 生徒相談は毎日駆け込めるところが必要
だが、スクールカウンセラーの来校は週
に 1 回程度。力量のばらつきもある。

それを拡充するならば、その効果の検証
と資質の向上を図るべきで、学校によっ
てはスクールソーシャルワーカー（家庭や地域へ
働きかける支援者）が必要な場合もある。

また、忙しい現場にとって、教員業務補
助の学校運営支援員はどこでもありがた
い評価の高い支援となっている。

**人件費を有効に使うなら、スクールカウ
ンセラーだけにこだわらず、現場が求める
支援員の配置・拡充を柔軟に行うべきでは
ないか。**

教 スクールカウンセラーは面接実施。年 2
回校長に評価してもらっている。年間 3 回
研修実施。

学校運営支援員は全国に先駆け昨年度
から 129 校に配置。部活同講師も 29 校に
配置で学校現場から業務改善につながると
高い評価を得ている。

学校運営支援員の拡充に努める。

細川 県内公立中学校の中で起き、原因が教
師側にあった池田中学校生徒転落事故につ
いて、**総合教育会議の座長である知事は「我
がこと」と受け止めているのか、あくまでも
「池田町の問題」ととらえているのか。**

知事 悲しく残念。今回の事故を反省材料に
まずは学校運営や教員に対し、**義務教育を自
治体が行うしくみの中、池田町において対策
を講じるのが重要。**

全県的に教員研修の充実・スクールカウ
ンセラーの配置拡充など、各学校の教育相談体
制を整え、未然防止や早期発見・早期対応に
努め、教育の信頼回復に努める。

細 「まずは池田町で」とのこと。
各学校、各市町によって、それぞれの課題や
目標があるので、市町の判断を尊重するとい
うのは理解する。

しかし**それならば、小中学校の教育に対し
日ごろから「それぞれの地域特性を活かした
市町の教育を支援する」という姿勢で臨むべ
きではないか？**

知 **義務教育は、「市町が本来的にやる」とい
う仕組み**。地域・学校・生徒による特性に
応じ、個別に市町の教育があり、そのうえ
で、県が「システム・インフラ・全体の考
え方」などを整理して示す。

細 しかし、**現実には学力優先の色が濃い。
英検の高校入試導入は、義務教育に大きく
影響している。市町の教育を尊重すると言
いながらも、現場は県に振り回されている。**

他にも、ウェブ算数（県の單元ごとの小テ
ストで結果をパソコンで打ち込ませるもの）
などで現場を悩ませている。もっと現場の声
を聴き、活動を支援する「ボトムアップ型」
に姿勢を変えるべき、

教 議員指摘もあり、ウェブ算数は強制しな
いよう見直した。教育長会議や校長会など
で率直な意見交換を行い、意思疎通を
図り、今後も**連携を密にしながら
教育行政に努めてまいりたい。**